

業界を先駆ける企業向け クラウド・サービスを展開 デルのブレード・サーバの 大量導入によりメニューを拡充

新日鉄ソリューションズ株式会社は、
クラウド・コンピューティングITインフラサービス
「absonne (アブソンス)」の新サービスを展開するにあたり、
プラットフォームの拡充を検討。5年間のライフ・サイクルにおいて
最も省エネルギー効果に優れていると判断された、
デルのブレード・サーバを導入した。



新日本製鐵株式会社の情報システム部門を前身として1980年代に誕生し、ITを重装備した製鉄業のシステムに取り組んできた新日鉄ソリューションズ株式会社は、個別の技術にとどまらず企画・構築・運用に至るシステム全般の技術とノウハウを蓄積してきた。その強みを活かし、サービスを含むアプリケーションと基盤、そして運用・保守にわたる全領域を一体化。産業界の幅広い顧客に対して、システム全体の最適化を支援。また、コンサルティングを強化し、ビジネス・システムのトランスフォーメーションを確実に提供できるメニューを整えている。その一貫として、2007年より展開しているのが、クラウド・コンピューティングITインフラサービス「absonne (アブソンス)」である。

PowerEdge M610は、最新のインテル® Xeon® プロセッサ5600番台にも対応



インテル® Xeon® プロセッサ5600番台は、アプリケーションの要求に応じて自動的に消費電力を調整し、スマートにサーバーのパフォーマンスを制御。電力効率と性能をさらに高い次元で実現しています。

優れた電力効率と性能を両立させるカギは、インテルの新しい32nmプロセス技術に基づく拡張版インテル® マイクロアーキテクチャ Nehalem にあります。この最新のアーキテクチャを採用したインテル® Xeon® プロセッサ5600番台は、必要な性能を確保しながらプロセッサとメモリーを最小限の電力ステートに自動的に移行させる、インテル® インテリジェント・パワー・テクノロジーを搭載しています。

旧世代のシングルコア・プロセッサ搭載サーバーに比べて最大15倍の性能とハードウェアによる仮想化支援機能を備えた、インテル® Xeon® プロセッサ5600番台搭載サーバーは、IT資産の利用効率向上、グリーンITの推進、IT投資のROI向上に貢献します。TCOの削減と定期的な性能を同時に実現するインテル® Xeon® プロセッサ5600番台は、ビジネスの競争力を強化し、データセンターの経済性を刷新します。

電力効率に優れたインテル® Xeon® プロセッサ5600番台搭載サーバーでIT基盤を更新すれば、将来の成長を見越した処理能力が得られます。電力コストも95%削減され、最短5カ月で投資を回収することが可能です。

インテル® Xeon® プロセッサ5600番台は、革新的な機能によって性能の飛躍的な向上やサーバー統合比率の向上を実現し、サーバー統合の先にある仮想化の利点を拡大します。また、インテル® パーチャライゼーション・テクノロジー FlexMigrationにより、異なる世代のプロセッサを搭載したサーバーが同一の仮想サーバープールに共存できるようになり、仮想マシンのフェイルオーバー、負荷分散、災害復旧の機能が向上します。

ソリューション
・クラウド・サービス



カスタマー・プロフィール

会社名：新日鉄ソリューションズ株式会社

業種：システム・インテグレーター

設立：1980年

従業員数：4,636名（連結）、2,359名（単独）
[2009年3月31日現在]

Webサイト：http://www.ns-sol.co.jp/

課題

「absonne」の基盤として、高密度実装やパフォーマンスなどの基本要件とともに、低消費電力化を実現するブレード・サーバを求めた

ソリューション

- 省電力性、高密度性に優れたデルのブレード・サーバ「PowerEdge M1000e」、インテル® Xeon® プロセッサ5500番台搭載「PowerEdge M610」を採用

導入効果

Get IT Faster — 迅速なITの導入 —

- ブレードサーバ・モジュール「PowerEdge M610」の追加による柔軟なITリソースの拡張

Run IT Better — IT運用・保守の簡素化 —

- 1台のエンクロージャ「PowerEdge M1000e」に16枚のサーバ・ブレードを高密度実装し、機器間接続におけるケーブル配線を削減
- 「Altiris Server Management Suite」によるサーバOSのイメージ管理

Grow IT Smarter — スマートなITの発展 —

- Dell EqualLogic PSシリーズiSCSIストレージ・アレイとの組み合わせにより、サーバからストレージまでのトータルな仮想化環境を構築



企業向けのクラウド・サービス absonne(アブソヌ)を展開

ITシステムの「所有から、利用へ」のコンセプトを実現する形態としてクラウド・コンピューティングが注目され、企業での導入も進み始めている。そうした中で、新日鉄ソリューションズ株式会社(以下、新日鉄ソリューションズ)は、クラウド・コンピューティング環境を提供するシステム・インテグレーターとしていち早く事業化に踏み切り、業績を伸ばしてきた。

そのビジネスの核となっているのが、2007年より同社がサービス提供を開始したクラウド・コンピューティングITインフラサービス「absonne(アブソヌ)」だ(図1)。

小規模なクラウド利用に対応する スタンダードモデルをリリース 低消費電力の優位性から デルのブレード・サーバを採用

2010年2月、同社は従来提供してきた absonne の

サービス・メニューを「エンタープライズモデル」と位置付けるとともに、新たなサービスとして「スタンダードモデル」の提供を開始した(図2)。

この absonne スタンダードモデルを新設するにあたり、新日鉄ソリューションズはハードウェア・プラットフォームの選定を実施。検討の結果、数あるサーバ製品の中から選ばれたのが、デルの「PowerEdge M1000e」(エンクロージャ)ならびに「PowerEdge M610」(サーバ・モジュール)で構成されたブレード・システムだった(図3)。

もっとも、同社は最初からデルに対する的確な認識を持っていたわけではない。「どちらかといえば、デルについてはクライアントPCのダイレクト販売メーカーという印象を抱いていました」と、鈴木氏も本音を覗かせる。こうした既存概念を払拭したのが、デル側からの徹底した情報提供である。今回の商談にあたったデルのシステムズ・ソリューションズ統括本部パートナービジネス本部ビジネス開発マネージャーの上田明は、次のように語る。

「デル製品の高い品質をご理解いただくためには、その裏付けとなる定量的な数値を示すことが一番と

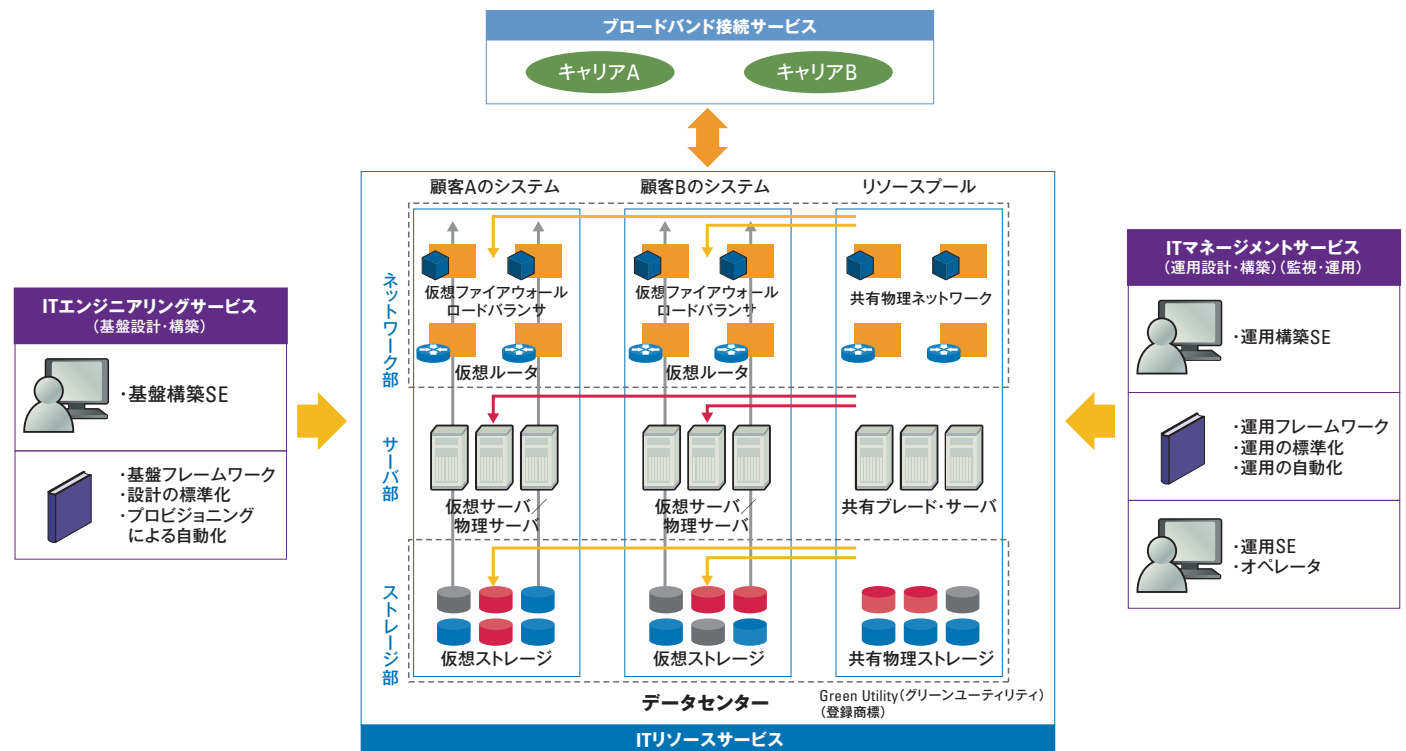
考えました。そこでデル社内でチームを組み、消費電力をはじめ、お客様が要求とされるさまざまなスペックを実測値ベースでとりまとめて提供してきました。今回、デル製ブレード・サーバを選んでいただけたのは、こうした私たちの姿勢そのものが高く評価された結果と自負しています」

Dell EqualLogic PSシリーズを活用し ストレージの仮想化ニーズにも対応

新日鉄ソリューションズは、PowerEdge M1000eならびにPowerEdge M610と組み合わせる新たなストレージ環境として、「Dell EqualLogic PSシリーズ」の採用も決定した。

Dell EqualLogic PSシリーズは、インテリジェントな自動化機能を備えるとともに耐障害性にも優れた仮想化対応iSCSIストレージ・アレイとして、卓越した管理の容易性とエンタープライズ・クラスの高いパフォーマンス、信頼性を提供する。また、3Uまたは4Uサイズの筐体において、400GB~48TBの容量ポイントによるシームレスな拡張が可能。単一の管

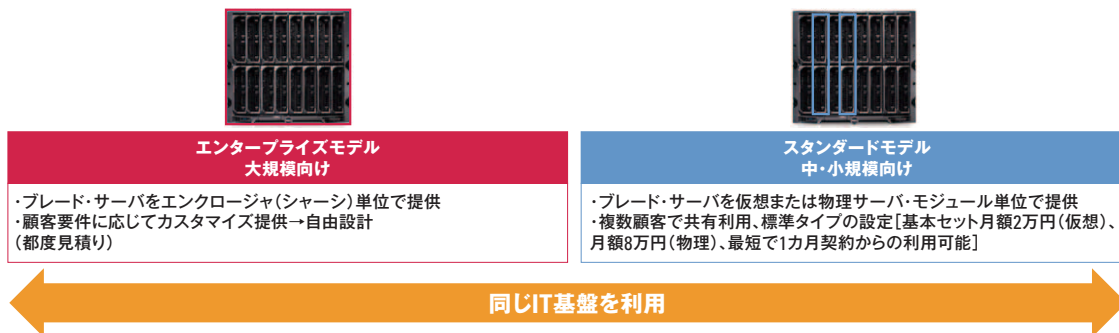
図1:クラウド・コンピューティングITインフラサービス「absonne(アブソヌ)」の概要図



「absonneは、拡張性・可用性に優れたITインフラを、月額費用に基づき必要な時に必要なだけ提供します。いわゆるHaaS (Hardware as a Service) やIaaS (Infrastructure as a Service) に分類されるサービスですが、absonneの場合、あくまでも企業が使うシステムとしての要求を満たしている点が特長です。ブロードバンド接続サービス、ITエンジニアリングサービス、ITマネジメントサービスを組み合わせたトータルサービスとして、すぐ使える状態で提供するとともに安定稼働をサポートしています」

ITインフラソリューション事業本部 ITエンジニアリング事業部 ソリューショングループ部長
早瀬久雄氏

図2: 「エンタープライズモデル」と新メニュー「スタンダードモデル」のちがい



「これまで absonne にお問合わせをいただいた中に、『小規模からクラウドを利用して事業をスタートさせたい』といったご要望が多数寄せられました。そこでビジネス・クラウドとしてのコンセプトを維持しつつ、より幅広いお客様のご要望にお応えしていくため、さらに導入しやすい単位で利用できるサービスとして、absonne スタンダードモデルをリリースしたのです」

ITインフラソリューション事業本部 ITエンジニアリング事業部 ソリューショングループ シニア・マネジャー
鈴木智久氏



理インタフェースのもとでDell EqualLogic PSシリーズを組み合わせることで、最大576TBの仮想化SAN環境を構築できるのが特長だ。

「absonneエンタープライズモデルでは、お客様のご要望に応じてサーバを仮想化した状態で提供するサービス・メニューを用意しています。同様に、今回のスタンダードモデルにおいても仮想化サーバの提供を開始しています。これらの仮想化環境にストレージ容量を供給するプラットフォームとして、Dell EqualLogic PSシリーズを活用していきたいと考えています」(早瀬氏)

そうした中で当社がDell EqualLogic PSシリーズに最も注目している点は、「使い勝手の良さ」にあるという。

「Dell EqualLogic PSシリーズにおけるストレージ容量の拡張は、実行中のアプリケーションを中断することなく、オンライン状態で行うことが可能です。しかも、同じiSCSI-SAN内で接続されたDell EqualLogic PSシリーズ間では、データの最適な再配置やロードバランシングまで自動的に実行されます。これにより、クラウドの最大のメリットである柔軟なリソースの拡張へのニーズにスピーディに対応するとともに、私たち運用側の人的負担を軽減することができます。ひいては、サービス価格の低廉化という形で、お客様にメリットを還元することも可能となります」と、鈴木氏は期待を語る。

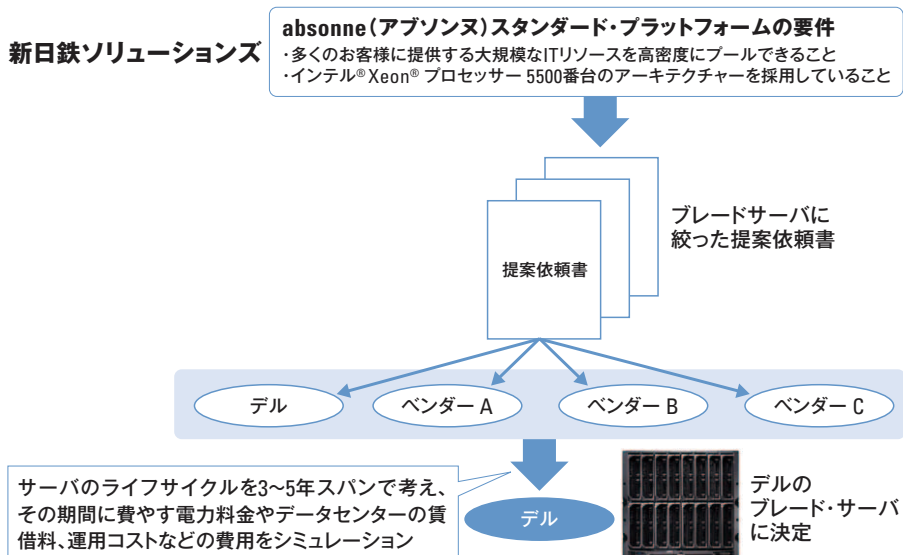
大規模なブレード・サーバ環境をリモートにより一元管理

前述したとおり、absonneスタンダードモデルは2010年2月からサービス提供が開始された。契約ユーザー数も順調な伸びを見せており、エンタープライズモデルの一部ユーザーにおける使用分を含め、現在

ではトータルで約400台のPowerEdge M610が稼働している。

早瀬氏は、今回のシステムについて、「absonneはクラウドとはいえ、企業システム向けのサービスとして99.99% (ファイブナイン) 以上のサービスレベルを維持すべきという設計思想のもと、あらゆる機器を冗長化し、障害に備えた可用性を確保しています。

図3: デルのブレードサーバが選択された理由



導入システム／ソリューション

ハードウェア

- Dell PowerEdge M1000e (2010年4月現在)
- Dell PowerEdge M610 × 約400台 (2010年4月現在)
- Dell EqualLogic PSシリーズ iSCSIストレージ・アレイ

「サーバ単体としてのコストを意識したのはもちろんですが、それ以上に重視したのが省電力性です。当時、さまざまなブレード・サーバを比較検討した中で、エンクロージャを含めたトータル・システムとして消費電力が最も低く抑えられていたのが、デルのブレード・システムでした」(早瀬氏)





absonneを支えるデルのサーバ群

サービスの拡充を進め 市場シェアのさらなる獲得を目指す

absonneのさらなるサービス拡充を目指し、新日鉄ソリューションズはシトリックス・システムズ・ジャパンと協業し、ISV（独立系ソフトウェア会社）向けのクラウド・コンピューティング環境の構築サービスにも乗り出している（囲み記事参照）。

クラウドで先行してきた同社は、いち早く市場シェアを獲得することが、ビジネス成功への方程式であることを誰よりも知っている。「チャレンジを続ける私たちを、今後も引き続きサポートしていただきたいと思っています」と早瀬氏は、デルに対する期待を語った。



NS Solutions

そうした中でデルのブレード・サーバは、冗長化の効果も含め、サービスに影響を与えるような障害を一度も起こすことなく安定稼働を続けており、非常に心強く感じています」と語る。

こうした手堅いインフラのもとで実現されるITリソース・サービスの脇を固めているのが、先にも少し触れた、absonneとして一貫提供される「ITエンジニアリングサービス」や「ITマネジメントサービス」といったサービスだ。同社の運用ノウハウを凝縮した基盤フレームワークによる短工期で高品質なITインフラ設計・構築を実現するとともに、最新の運用自動化技術を採用したITILベースの効率性・安全性に優れた運用を追求しているのである。

そして、今後に向けて同社は、この運用基盤のさらなる改善・強化に向けた取り組みを加速させている。

さらに、堅牢かつ安定した運用基盤を維持するため、運用管理ツールにもこだわっている。

「高い信頼性はabsonneのセールスポイントの1つであり、そのためにも、安定稼働を維持するための運用管理の実現が重要です。そうしたことから、運用管理ツールについても自社で独自に開発しました。このツールには、ベンダーから提供されている管理ツールと連携可能な仕組みが備わっています。例えばデルのシステムの場合では、シマンテックの管理ツールである『Altiris Server Management Suite』とオートマチックに連携、ブレード・サーバの制御やプロビジョニングを行えるような仕組みが用意されています」（早瀬氏）



自律的な省電力機能

業界をリードする電力効率と、ワークロードに適應するスマートかつ高性能を組み合わせて、消費電力を自動的に制御します。

SaaSに乗り出すISVをサポートするサービスも提供

absonneを活用した新ビジネスの第一弾となるのが、ISVが販売するアプリケーションのSaaS（Software as a Service）化を支援する「SaaSスタートアップ@absonne」だ。2010年2月にスタートした同サービスは、absonne上にシトリックスのアプリケーション仮想化ツール「Citrix XenApp」を搭載、アプリケーション稼働検証サービス（無償）やSaaSインフラ導入コンサルティングサービスを提供する。

「SaaSスタートアップ@absonneを利用することにより、ISVは自社のアプリケーションをSaaS化して展開する際に直面する、『どのように構築・運用するか、問題なく稼働するか、SaaS化する上での改修点がどこにあるか』といった課題を解決することができます。本サービスは検証環境を無償で利用可能であるため、検証コストを大幅に削減します。また、実際のクラウド上で検証したアプリケーションを本番クラウド環境に移行することで、新サービス提供までの時間を短縮し、マーケットニーズに対して迅速に対応することができます」（早瀬氏）

新日鉄ソリューションズが提供するabsonneの新プラットフォーム構築をサポートしたデルのアカウント・チーム



システムズ・ソリューションズ
統括本部
パートナービジネス本部
ビジネス開発マネージャー
上田 明



営業統括本部 営業第一部
アカウントエグゼクティブ
藤光 岳



（左より）
営業統括本部 営業第一部
セールスレプレゼンタティブ
下野 敬介

システムズ・ソリューションズ統括本部
テクニカルセールス第一部
テクニカル・セールス・レプレゼンタティブ
渡辺 由布子

システムズ・ソリューションズ統括本部
アドバンスド・ソリューション開発本部
ビジネス開発マネージャー
坂本 寛章

The Efficient Enterprise runs on Dell at efficiententerprise.com/

©2009 Dell Inc.

● Knowledge, PowerVault, Dellロゴは、米国Dell Inc.の商標または登録商標です。
● NS (ロゴ)、NS Solutions、absonne (アブソンズ)、GreenUtility (グリーンユーティリティ)は、新日鉄ソリューションズ株式会社の登録商標です。
● その他の社名及び製品名は各社の商標または登録商標です。● 取材 2010年
アール株式会社 〒212-8589 川崎市幸区堀川町 580 番地 ソリッドスクエア東館 20F
Tel. 044-542-4047 www.dell.com/jp

